



医学部だより

第26号

2013.4.1



大学生の自覚を持って初志貫徹を

医学部長 苛原 稔

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。医学部を代表して心より皆さんの入学を歓迎いたします。これから卒業まで、ともに学び、ともに語り、ともに楽しみ、充実した大学生活を送ってください。医学部の教職員一同は、皆さんの大学生活が素晴らしく意義のあるものになるよう、最大の応援させていただきます。

さて、皆さんが入学された徳島大学医学部は、昭和18(1943)年に前身の徳島医学専門学校が開校されてから、今年でちょうど70年の歴史を刻んで来ました。この間、四国の最高の医学教育機関として多くの医療人を全国に輩出し、皆さんの先輩は全国津々浦々で先端医療や地域医療の担い手として活躍しています。皆さんが夢を持って入学された本学部が歴史と伝統に培われた学部であるとの自覚を持って学んでいただきたいと思えます。

本学部は医学科、栄養学科、保健学科の3学科から構成されていますが、医学部のある徳島大学蔵本キャンパスには他に、歯学部、薬学部、疾患酵素学研究中心、疾患プロテオゲノム研究中心などが集積し、日本でも他に類を見ないヘルスサイエンスの研究施設として、世界的に認められる多くの研究成果を挙げ、日本の医学系の研究拠点のひとつに位置づけられています。さらに、併設する徳島大学病院では皆さんの実習の場を提供するとともに、高度医療センターとして日々の診療が行われています。本学部の教育目標は研究マインドを背景にした高度医療人の育成であり、本学部で医学という学問を学ぶことになった皆さんには、この充実した環境を生かして学んで欲しいと思えます。

さて今、医学部および病院では急ピッチに再開発を進めてい

ます。昭和40年代に建てられた古い施設を一新し、さらに教育や研究のための新しい施設を用意しています。4月には医学部のシンボルである大塚講堂が大塚製薬株式会社から寄付をさせていただいてリニューアルし、夏までには、藤井節郎記念医科学センター、総合研究棟が完成し、さらに平成27年春には病院に新外来棟が完成します。このように、皆さんの学舎は、在学時代を通して日々充実して行きますので、是非活用していただきたいと思えます。

皆さんは、難関の徳島大学医学部に入学されて、これからの大学生活に夢を膨らませていることでしょう。しかし、敢えて一言、先輩として伝えておきます。大学生の本分は学ぶことです。もちろん、その第一は自分のためですが、しかし、国立大学である徳島大学には多額の税金が投入されていることも自覚してください。皆さんは、そこで学ぶ機会を得たのですから、それに応える必要があります。皆さんには将来の日本の医療の担い手としての熱い期待があります。我々にも皆さんを素晴らしい医療人にする義務があります。お互いにこの自覚を改めて確認しましょう。本学部を志望された動機は様々でしょうが、多くは医療人として社会に貢献したいと思って選ばれたと思えます。皆さんは選ばれたのですから、入学した今の気持ちを忘れず、初心を貫徹してください。それが大学生としての責務ではないでしょうか。期待しています。

最後に、大学生の時代は人生の基礎を完成させるもっとも重要な時期です。是非、一生を支えるよい習慣を身につけてください。それから、一生を支える友人を作ってください。そして、何をすべきか、人生の目的を見つける学生生活にさせていただきたいと思えます。健闘を祈ります。

目次

CONTENTS

医学部長挨拶	1	受賞者紹介	9
新入生のみなさんへ	2	蔵本祭	10
先輩から医学部紹介	4	数字で見る医学部	11
学友会活動	5	第59回徳島大学解剖体慰霊祭	11
医学部行事予定	5	新任教職員あいさつ	12
韓国 Yonsei 大学校との部局間協定	6	退職者ご挨拶	13
ネパールトリブバン大学との学部間協定	7	新任准教授紹介	13
施設紹介(大塚講堂)	8	受賞者紹介	14
徳島医学会報告	9		



医学科新入生の皆様へ —医学を探究する心—

医学科長 安 友 康 二

このたびは、徳島大学医学部医学科へのご入学、おめでとうございます。徳島大学医学部は60年以上の歴史を持ち、国内外で活躍している多くの卒業生を輩出しています。その系譜を継ぐ人材として皆さんの未来に大いに期待しています。

大学という場は、知を得る場でもあり、学問を探究する心を育む場です。皆さんは医学科に入学したわけですから、これから医学という学問を知り、そして探求しなくてはなりません。卒後は実践という要因も加わります。では、医学とはどういう学問なのでしょう。人の病気を治すことを目的とした学問というのは誰でも答えることができるはず。もちろんそれは正しい答えです。でもそれだけではありません。医学は、人と

は生物学的にどういう存在であるのかということを探る学問の一つでもあります。もう少しわかりやすく言うと、人の生命活動がどのようにして生まれ維持されているか、それが他の生物とどのように違うのかということを探る学問でもあります。病気を治すということ、人の生命活動の根源を知ること、その両者に対して、これから皆さんは知識を得て、それぞれの方法で真摯に挑んでいかなくてはなりません。大学では学ぶ方法も、探求する方法も同じである必要はありません。むしろ他の人と違うことを長所ととらえて個を確立してください。勉学以外のことに挑戦してもいいと思います。ただ、医学を探究する心を育むということ、それが大学という場でなすべき事であるということを理解してそして忘れないでください。



新入生の皆様へ

栄養学科長 宮 本 賢 一

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。厳しい受験生活を乗り越え、晴れて医学部栄養学科への入学された新入生の皆さんに、心から敬意とお祝いを申し上げます。栄養学科は創立50年を迎え、節目となる時期に皆様は入学されます。この間、我が栄養学科は、歴代の日本栄養士会会長など、日本の「栄養学」を支える多くの優れた人材を世に輩出してきました。このような先輩達の、実践面における努力により、日本は世界一の健康長寿を維持できる国として認められるようになりました。しかしながら、食のグローバル化の波が世界中に押し寄せ、我が国

においても、様々な新しい問題に目を向ける必要が出てきました。このような社会ニーズに対応できる管理栄養士となるには、医学、保健学、看護学、薬学、歯学、そして社会学、経営学等の学際的学術体系を身につける事が必要とされております。それ故、栄養学科では教員が一丸となって、時代のニーズを満たす人材育成に取り組んでおります。幸いにも、蔵本キャンパスは、医学/歯学/薬学/保健学の各学部が集積し、充実した医療教育システムが整備されております。新入生全員が栄養学分野のリーダーを目指し、大きな志を抱き、この伝統ある栄養学科をさらに発展させてくれることを期待しております。



ようこそ！徳島大学保健学科へ

保健学科長 近 藤 和 也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは保健学科12期生になります。医療人になることを目指して、苦しい受験勉強をがんばって来られたと思います。その時の“思い”を忘れず、4年間の大学生活を楽しむとともに、“夢”を達成してください。保健学科に入学された皆さんは、将来の職業として、看護師、保健師、助産師、養護教諭、診療放射線技師、臨床検査技師を希望されたと思います。現在の医療は様々な問題を抱えるとともに、質量ともに目覚ましい発展をしてきました。やりがいはあるが、学ぶことも多いということです。また、自分の分野だけに限って学ぶだけでは不十分です。私たち医療人に最も求められているのは、患者さんを中心に全ての医療人が

協力する“チーム医療”です。その点、徳島大学は“チーム医療”を学ぶ良好な環境を有する大学です。蔵本地域はヘルスバイオサイエンス研究部と名付けられ、私たちの保健学科のほか、医学科、栄養学科、歯学部、薬学部が集まり、多様な医療人を育成する総合大学になっています。他職種になる学生とも楽しく交流し、良い人間関係を作ってください。保健学科（保健科学教育部）は、大学院博士前期（修士）課程が設置され6年、大学院博士後期課程が設置され4年が経過し、専門職医療人を育成するシステムを構築しています。皆さんが卒業される4年後には、様々な高度専門職医療人育成のコースができていると思われます。若い皆さん方が、各分野におけるリーダーになられ、徳島及び日本の医療を牽引されることを願っています。

***** 新入生の皆さんへ *****



医学科4年次 大羽 美奈

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。いま、皆さんは溢れんばかりの希望とちょっとした不安を胸に夢の大学生活への第一歩を踏み出されたことと思います。そんな大学生活はカリキュラムの組み方などある程度自由なものとなっていますが、同時にそれ相応の責任が伴います。また同じ場所からスタートしても自分の心がけや行動次第でその後の到達点は大きく変わります。時間は全員に平等に過ぎていくのですから、メリハリをつけて「勉強するときはきっちり勉強する」「遊ぶときは思いっきり遊ぶ」そして、時には休む。そうやってこれから勉学はもちろんのこと、部活動、バイト、遊びなどあらゆることに積極的に取り組んでいって欲しいと思います。よく「学生時代にしか出来ないことは多い」と言いますが、本当にそうだと思います。そして、「人は行動した後悔よりも行動しない後悔の方が大きい」というのも本当です。つまりは、思い立ったが吉日！

いろんな場所へ行って、いろんな人と出会って、どんどん新しいことにもチャレンジして、たくさんのことを学んでいって欲しいです。そうやって得た経験や築いた人間関係は間違いなく皆さんの今後の人生の糧となると思います。まだ医学生折り返し地点の私ですが、それを実感しつつあります。

最後に、時間は有限です！可能性は無限です！皆さんの大学生活が有意義で、実り多きものとなりますように。



栄養学科4年次 坂下 慎宏

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大変な受験勉強から解放され、大学生活で、あれしたいこれしたいなど希望に満ち溢れていることでしょう。

サークル、部活、アルバイト、留学、ぜひしてください。大学ではそのしたいことをとことんすることができるところです。そして、その時に関わった人々を大切にしてください。僕は、大学生活で最も大切なものは人とのつながりだと思います。勉強も大切です。親御さんに学費を払ってもらっている人はその自覚を持ち、日々を過ごしましょう。しかし、一生の宝ものになるのは仲間だと思います。医学部栄養学科では4月には1年生が主役となる新入生歓迎会、5月にはクラス全員で焼き鳥を売る五月祭、8月には1年生から教授の方々まで一緒に踊る阿波踊り、などたくさん行事があるので積極的に参加し、人とのつながりを大切に仲間という一生の宝ものを作ってください。特にこの栄養学科が力を入れているのは阿波踊りです。栄養学科では全体として栄養学連というチームを作って踊るのですが、栄養学連は学生連の中では1、2を争うレベルがあり、楽しく、一生懸命になれる素晴らしい連です。この連に所属して僕らは本当によかったですし誇りに思います。毎年ほぼ全員が阿波踊りに参加しているのでぜひ皆さん一緒に踊りましょう。



保健学科看護学専攻4年次 久米 絢子

新入生のみなさん御入学おめでとうございます。

大学生活はあっという間に過ぎていきます。講義や病棟実習がありますが、部活動やアルバイトもして有意義な大学生活をすごしてください。

看護学専攻は大変なこともたくさんありますが、先生方や先輩方、友達に支えられながら多くのことを学び、充実した大学生活を送ることができると思います。みなさんも、勉強も遊びも一生懸命にして、楽しい大学生活を送られることを願っています。



保健学科放射線技術科学専攻4年次 福良 亮介

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。地獄のような受験生活を乗り切り、この専攻にきた以上「放射線についてしっかり勉強するぞ〜！」と意気込んでいる人も多いと思いますが、一人暮らしを始め、新しい友達に出会い、がみがみと文句を言う親ともしばらくのお別れです。こんな条件が揃ってしまったら、勉強以外のことも楽しめないわけにはいきません。この前まで高校生だった皆さんには、授業をサポートしたり、徹夜で麻雀をしたり、毎週合コンに行ったりする先輩は、新種の生物のように見えるかもしれません。決して見習えとは言わないので、いろいろな先輩や友人から良い楽しみ方のみを吸収しながら、4年間を有意義に過ごしてください。



保健学科検査技術科学専攻4年次 井上 雄介

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。長かった受験生活も終わり、これから始まる大学生活に大きな期待を抱いていることと思います。

検査技術科学専攻では2年、3年と学年が上がるにつれて講義や実習の時間が増え、自分の時間を確保することが難しくなってきます。そのため、1年次のうちにサークルやアルバイトなど様々なことに積極的に挑戦してほしいと思います。

大学生活では、勉学に励むのは当然ですが、様々な活動を通して多くの人と交流することで、学べることもたくさんあると思います。

新しい環境でのスタートなので、戸惑うこともあるかもしれませんが、友人と支えあいながら、自分のやりたいことに積極的に挑戦して、有意義な大学生活にしてください。

先輩から医学部紹介

新入生のみなさんご入学おめでとうございます

講義について

栄養学科4年次 藤本和輝

大学の講義について紹介します。大学の講義は高校の時と比べ、少し異なります。1年生は各自で講義を選択することができる教養科目と、各学科ごとに決められている専門科目をそれぞれ受講します。

教養科目は「歴史と文化」「人間と生命」「生活と社会」「自然と技術」の4つの分野に分類されており、それぞれの分野をバランスよく受講することが決まりとなっています。講義の内容や目的といったものはシラバスに記載されているので、シラバスをしっかりと読んで情報を集めておきましょう。また、先輩たちもこれらの講義を受けてきているのでどの講義を受講するか迷った時は先輩に相談するのもいいと思います。きっと、丁寧に教えてくれると思いますよ。私の場合は、宇宙や宗教、世界史、音楽史など専門科目では学ぶことのできない、興味のかかれる内容の講義を受講しました。講義内容は専門的な内容ながらも非常にわかりやすく、あまり詳しいことを知らなくても楽しめる内容でした。

教養科目は常三島キャンパスで主に受講しますが、週1～2日は専門科目を蔵本キャンパスで受講します。専門科目では皆さんが学ぼうと思っている医学

のことについて十分に学ぶことができると思います。皆さんの将来に繋がる良質な講義・実習がたくさんあると思うので、一生に一度の貴重な機会と思って積極的に学んでください。疑問に思うことがあれば先生のもとへ尋ねて直接質問をしたり、新しくなった図書館で書物や論文などを調べれば多くは解決できると思うので、どんどん活用していきましょう。

最後になりますが、大学生活は自分自身の能力を磨く時間が十分にあります。これから素晴らしい生活が始まります。爽やかなキャンパスライフを過ごしてください。



部活動・サークル活動について

医学科4年次 蘭田直央

大学に入学してまず思い浮かぶことといえば、「部活動・サークル活動」ではないでしょうか。実際、大学生活において部活動やサークル活動はかなり重要な位置づけにあります。大学には高校と比べてより多くの部活・サークルがあるので、初めのうちはどこへ行けばよいかわからないかもしれません。そんな時は、興味のある部活・サークル全部に見学に行ってみましょう。それぞれの部活・サークルごとにカラーがあっ

て面白いですよ。

自分のことになりますが、私は医歯薬合同の男子バスケットボール部のマネージャーをしています。高校の時もバスケット部のマネージャーをしていた事、見学に行った時にバスケット部の雰囲気と、先輩がプレーする姿を見てもう一度バスケットに関わる事がしたいと思ったのが、入部したきっかけです。部活動やサークル活動では、活動を通して非常に密接な人間関係を築くことができます。先輩、同級生、後輩、他学部の友人などもたくさん作れますし、大学で築いた人間関係は一生の財産になります。私自身もバスケット部に入部したことで、学部・学科の垣根を越えてたくさんの先輩、友人、後輩と知り合うことができました。この人間関係は部活に入っていないければ決してできることのない繋がりと断言できます。

大学生にとって大事なことは、とにかく色々なことを経験し、色々な人と交流する事だと思います。そのきっかけ作りに、部活動・サークル活動に入ってみませんか。どの部活、サークルもみなさんの入部を心から楽しみにしています。ぜひ、気軽に足を運んでみてください！



大学生協

保健学科4年次 福田 翔太郎

大学生協は、私たちがより良い学生生活を送るために、様々なサポートをしてくれる組織です。新入生の皆さんが、入学すれば必ずお世話になるので、上手く学生生活に役立てることができるように少し紹介させていただきます。蔵本キャンパスにはカフェ施設“くらら”と蔵本SHOPがあります。

くららでは季節に合わせたデザートやお菓子、ジュースなどが購入でき、講義の合間や少し空いた時間に休憩することができます。また、昼食時は弁当やどんぶり、夕食時には日替わり定食も提供されており、多くの学生が利用しています。店内はオレンジを基調としたおしゃれな空間になっており、ちょっとコーヒーを飲むのにはちょうど良い空間です。



蔵本SHOPは学生生活に必要な参考書や、筆記用具、白衣、さらには携帯の充電器まで取り揃えています。また、国内旅行や海外旅行のパンフレットが置かれており、旅行の手配が可能なので、友達との旅行は行きやすいです。さらに、運転免許の申し込みを生協で行うと、少し安くなったり、特典が付くのでお得です。蔵本SHOPは、現在改装工事中ですが、2013年5月に完成予定なのでぜひご利用ください。予定ではコンビニ、ブックストア、さらに生協が運営する食堂などが営業されます。

大学は自分で進んで行動していくことで、楽しく充実した生活を送ることができます。学業も遊びもサポートしてくれる大学生協を利用して、より良い大学生活をスタートしてください。



学 友 会 活 動

● 運動部

	クラブ名	部長
1	硬式野球部	中西 秀樹
2	ソフトテニス部	森 健治
3	ラグビー部	中西 秀樹
4	卓球部	香美 祥二
5	柔道部	永廣 信治
6	弓道部	石村 和敬
7	剣道部	安井 夏生
8	準硬式野球部	島田 光生
9	合気道部	上野 淳二
10	水泳部	中屋 豊

	クラブ名	部長
11	硬式庭球部	福井 清
12	バドミントン部	土井 俊夫
13	サッカー部	高橋 章
14	バレーボール部	勢井 宏義
15	バスケットボール部	泉 啓介
16	空手道部	丹黒 章
17	陸上競技部	福井 清
18	ゴルフ部	苛原 稔
19	水上競技部	二川 健

● 文化部

	クラブ名	部長
1	軽音楽部	中西 秀樹
2	外国語研究会	船木 真理
3	栄養学研究会	酒井 徹
4	茶道部	羽地 達次
5	室内楽同好会	大下 修造
6	地域医療研究会	谷 憲治
7	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
8	ジャグリングサークル	渡辺 浩良

※入部等の問い合わせについては、学務課(学生指導担当: ☎ 633-7030)へ連絡してください。

医学部行事予定 (平成25年4月～平成25年9月)



- 4月4日(休)～10日(休) (5, 7日を除く)
医学部新入生学科別オリエンテーション
医学科、栄養学科、保健学科
- 4月4日(休) 学生定期健康診断 医学科・栄養学科1年次
- 4月5日(金) 徳島大学入学式、医学部共通新入生オリエンテーション (13:30～大塚講堂)
- 4月6日(土) 医学部新入生研修 (於: 大塚講堂)
- 4月9日(火) 学生定期健康診断 保健学科1年次

- 4月11日(休) 新入生授業開始
- 4月23日(火)～26日(金)、5月7日(火)
学生定期健康診断
医学科・栄養学科・保健学科2年次以上
- 8月8日(休)～ 西日本医科体育大会
- 8月8日(休)～9日(金)
徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
医学科、栄養学科、保健学科

韓国Yonsei大学との部局間協定締結について

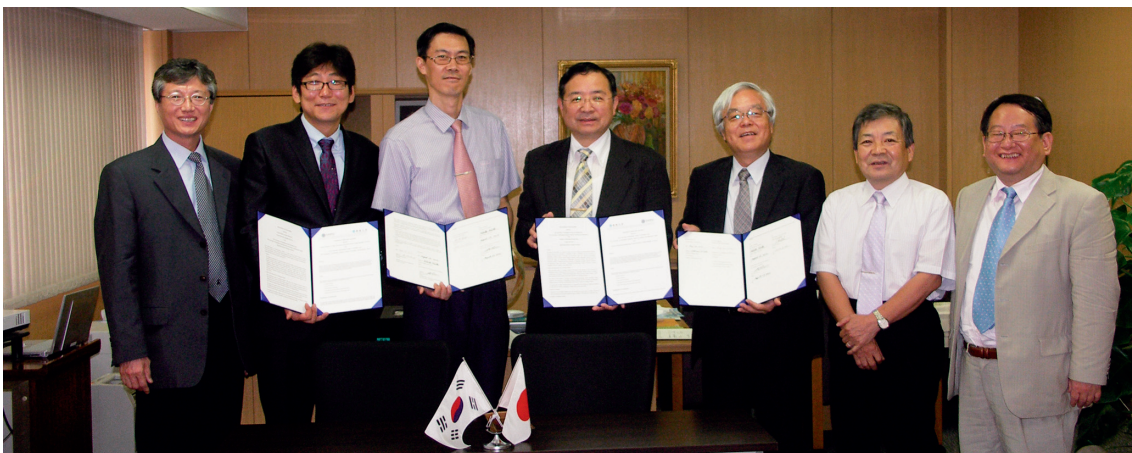
生体栄養学分野 二 川 健

平成24年8月 徳島大学医学部および徳島大学大学院栄養生命科学教育部は、Yonsei 大学宇宙生命科学研究所と同大学医療工学研究所と部局間協定を締結した。その経緯と意義についてご説明したい。本協定の締結は、今から10年前にスタートした日韓宇宙フォーラムに由来する。日韓の宇宙工学、宇宙生物学など宇宙関連学問の研究者が一堂に会し、2-3泊の予定で学問だけでなく相互の分化について理解を深めていくアットホームな研究会である。私は、第3回ソウル大会より参加し、そこで今回の連携の立役者である3名の韓国の研究者（Yonsei 大学宇宙生物学研究所 Inho Choi 教授、Tack J Kim 教授、Yonsei 大学医療工学研究所 Han S Kim 教授）と出会った。Choi 教授が筋肉、両 Kim 教授が骨の研究を行っていたことより、私は Choi 先生と共同研究の可能性を探ることになった（両 Kim 先生は徳島大学で宇宙の骨研究に興味のある研究者を探しておられますので、興味のある方はぜひ二川までご連絡ください）。本フォーラムの地道な活動が JAXA（宇宙航空研究開発機構）及び KARI（韓国航空宇宙研究院）により認められ、日韓共同宇宙研究プロジェクトがスタートした。そのプロジェクトの中で「無重力や寝たきりによる筋萎縮の予防に有効なバイオ素材の探索」という研究テーマが2011年に KARI により、一年遅れの2012年に JAXA により採択され、2015年度末を目指して国際宇宙ステーションで宇宙実験を行うことになった。本研究は初の日韓共同宇宙研究プロジェクトであるので、両国の共同研究代表者が所属する大学間で協定を結んだ方が良いのではないかと、本協定締結となった次第である。本協定では、研究者同士の交流に加え、学生、大学院生の交流も可能なように工夫している。将来、多くの研究者と学生がこの協定を利用して両大学の交流が活発になることを願っている。また、本協定締結に当たり、Yonsei 大学副学長 Myungjin Kim 先生、徳島大学副学長高石先生、医学部学部長玉置先生、栄養学科長寺尾先生、医学部長補佐村澤様に多大なるご援助を頂戴しました。この場を借りて御礼申し上げます。

最後に、(私のようなものが述べるべきかどうか迷ったのですが)、日韓関係について私なりの考えを述べたいと思います。昨年、イ・ミョンバク韓国大統領の竹島上陸以降、日韓関係は最悪の状況です。今回の一連の行動は、(竹島は第二次世界大戦

の負の遺産であるが) 日本の戦争責任などとは無関係であり、大統領選など韓国側の都合によるように思えます。そのような背景から韓国脅威論、韓国押さえるべしといった強硬な意見も、昨今の日本国内では徐々に大きくなりつつあります。私自身も日本人であるので、韓国の経済発展、翻って日本経済の没落をみますと、このままでは日本は韓国に負けてしまうのではとねたましく、また残念に思うことも多いです。しかしながら、このまま日本がアジアで孤立したままでこれまでのような繁栄を続けていけるのでしょうか。おそらく答えは否だと思います。ドイツとフランスの関係を見つめてほしいと思います。両国は、

第一次、第二次世界大戦だけでなく、幾度となく直接戦い、多数の死者を生み、また領土を取り合ってきました。しかも、同じ白人ですが、ラテン系のフランス人とゲルマン系のドイツ人とは文化も考え方もまったく違うのです。それがどうでしょうか。今ではお互いを尊敬しあい、ヨーロッパのリーダーとして EU（欧州連合）を牽引しています。昨年度はその EU がノーベル平和賞も獲得しました。近代において日本と韓国は一度も直接戦っていないにも関わらず、残念ながら日韓関係は上記のように非常に難しく難しい関係のままです。日韓関係を独仏関係のような強固なものにするには、両国民が成熟するための時間ときっかけ（共同作業）が必要なのだと思われます。非常に小さな一歩ではありますが、今回の連携締結とそれに続く宇宙実験が、若い世代の日韓交流をさらに活発にし、しいては日韓関係の成熟に繋がればと強く願っております。



ネパール国立トリブバン大学医学部との学部間協定締結報告

眼科学分野 内藤 毅

ネパールは、正式にはネパール連邦民主共和国と言います。以前はネパール王国でしたが、内戦後2008年に王制が廃止され連邦民主共和国になりました。主な産業は農業で、ヒマラヤ観光等の観光業は重要な産業となっています。しかしその規模は小さく、経済的にはアジアの中でも非常に低い水準です。

徳島大学医学部とネパール国立トリブバン大学医学部との交流は、トリブバン大学医学部附属病院が日本の援助で建設された1984年から続いています。これまでは眼科を主とした交流支援でしたが、この度、香川征学長のご指導のもと玉置俊晃医学部長のご尽力により、医学部間協定が結ばれましたので報告します。

2010年12月に玉置医学部長がトリブバン大学医学部を訪問され、当時の医学部長と医学部間協定に向けての意見交換を行いました。2011年11月にはトリブバン大学眼科のJeevan Shrestha教授が視察に来られ、香川学長を表敬訪問して意見交換しました。2012年3月には三田村佳典教授のご尽力により眼科学分野間で協定を締結し協力体制を固めました。そして今回の医学部間協定に至りました。

今回、徳島大学から玉置俊晃医学部長、丹黒章教授、三田村佳典教授、村澤普惠医学部長補佐と私の5人がネパールに渡航し、首都カトマンズで医学部間協定を締結しました。

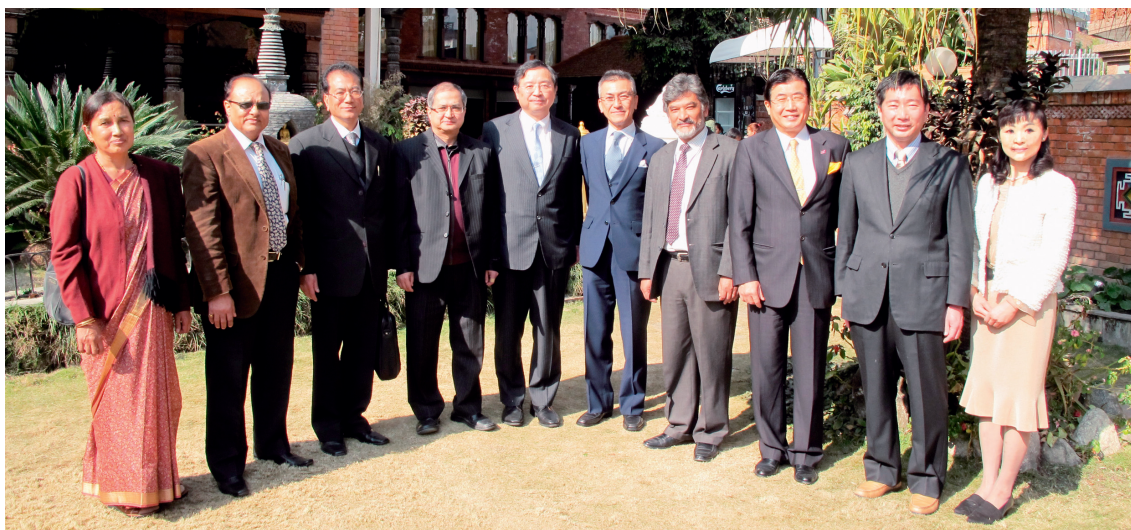


2012年12月10日夕方のバスで関西国際空港に移動し、12月11日深夜0時30分発のタイ航空機にて出発し、バンコクで乗り換えネパールの首都カトマンズに向かいました。ネパールと言えばエベレストを初めヒマラヤと言われるように、首都カトマンズに近づくと雲の切れ目からヒマラヤが見えました。12月11日の昼過ぎにカトマンズに到着しました。ネパールは寒いというイメージがありますが、カトマンズの気候は温暖で日中は同時期の徳島より暖かいからです。



12月12日、午前に関西大学によるシンポジウムを行い、学部間協定締結を行いました。徳島大学からはまず村澤医学部長補佐が徳島大学を紹介し、その後、玉置医学部長、丹黒教授、三田村教授が研究内容等に関して講演し、交互にトリブバン大学側から大学紹介、研究内容等の講演がありました。最後に私がトリブバン大学医学部附属病院開設当時の写真等を供覧し、学部間協定締結に至るまでの過程を紹介しました。シンポジウム終了後、学部間協定覚書に玉置医学部長とトリブバン大学のPrakash Sayami医学部長が署名し協定は締結され、最後に両医学部長が挨拶され、予定を終了しました。夜は駐ネパール日本大使の高橋大使主催の夕食会に両大学関係者が出席し親睦を深めることができました。高橋大使はじめ駐ネパール日本大使館の関係者の皆様には大変お世話になりました。

現在までは主に眼科で医療支援等を行って来ましたが、今後両大学間の交流が盛んになり日本とネパールの国際交流の発展に寄与することが期待されます。今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。



施設紹介

大塚講堂のリニューアルオープン!!

医歯薬事務部総務課長 居山 勝重

大塚講堂は、昭和40年8月に大塚製薬株式会社様からのご寄附により竣工になり、その後平成23年7月の覚書締結時点では46年が経過しており、老朽化が目立っていました。そのような折、大塚ホールディングス株式会社様の申し出により、平成24年4月から現物寄附による大塚講堂整備事業が進められて来て、本年3月27日に竣工しました。

この整備事業により、従来からあった講堂が全面的に改修され新たに655人収容の大ホールに生まれ変わります。また、新営工事により、新たに講義棟が建設され、小ホール（講義室）2室ができたほか、東側には、全面ガラス張りのホワイエが完成しました。



▲ 講堂外観



▲ 大ホール

また、大塚講堂の東外側には、徳島大学の学章と大塚講堂をイメージした2種類のフラッグが飾られています。学章については、ここでは説明を省略させていただきますが、大塚講堂のフラッグは、大塚講堂は多数の「人」が集まり、知識を重ねる場所ですので、テーマを「人」として、文字を知識やコミュニケーション（つながり）の象徴ととらえて、Otsuka Memorial University Auditoriumの頭文字であるOMUAを組み合わせ、積み重ねることによって「人」ができるというイメージでデザインされています。

大塚講堂の竣工に伴い、4月1日(月)には、大塚ホールディングス株式会社から代表取締役社長兼CEO 樋口達夫様、取締役副社長 大塚一郎様をはじめとする関係の方々のご臨席を賜り、本学からは香川征学長、各理事等の関係者の出席のもとオープンセレモニーが挙行されます。また、4月14日(日)には、大塚講堂のリニューアルオープン記念行事として、大塚製薬株式会社と本学の主催により「食卓にサイエンスを!!」をテーマに市民公開講座が開催される予定です。

大塚講堂の竣工により、講演会、市民公開講座や研修会はもちろんのこと、相当大規模な学会等でも大塚講堂の大ホールを

メイン会場として、小ホールや長井記念ホール等をサブ会場として開催することができるようになります。新しい大塚講堂を教育研究や地域貢献等に積極的に利用していただきますようお願いいたします。



▲ 小ホール1・2

なお、大塚講堂の施設概要等については「HBS研究部だより第18号」に掲載されていますので、ご参照していただきますようお願いいたします。



▲ ホワイエ(2F)

徳島医学会報告

■ 第246回徳島医学会学術集会（平成24年度冬期）

人体病理学分野 坂下直実

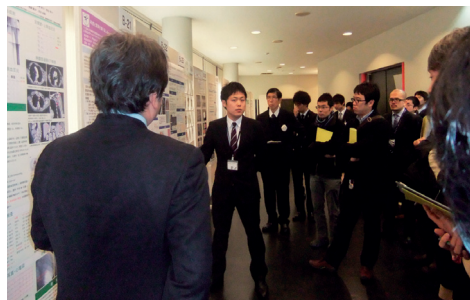
第246回徳島医学会学術集会は平成25年2月3日(日)に長井記念ホールにて開催された。徳島大学の担当は人体病理学分野(坂下)と皮膚科学分野(久保宜明教授)で、大学関係者95名、医師会関係者52名、公開シンポジウムへの一般市民参加者7名、合計154名が参加する学術集会となった。

午前中のセッションは教授就任記念講演からスタートした。演者と講演タイトルは医療教育学分野の赤池雅史教授「医学教育 Update ～医学・医療における基礎的・汎用的能力の育成～」、画像情報医学分野の大塚秀樹教授「心筋血流 SPECT と冠動脈 CT の融合画像」、呼吸器・膠原病内科学分野の西岡安彦教授「難治性呼吸器疾患の分子病態解明と新規治療法の開発」であった。いずれもそれぞれの専門領域の動向と各教授の研究の独自性が示された素晴らしい内容であった。続いて2つの会場において合計33演題のポスターセッションが開催され、それぞれ活発な討論が行われた。このポスターセッションから第30回徳島医学会賞受賞者として小松正人氏(疾患プロテオゲノム研究センターゲノム制御分野)と八木恵子氏(医療法人有誠会手束病院)が選ばれ、第9回若手奨励賞受賞者には徳島大学卒後臨床研修センター所属の高木恵理氏と小林直登氏が選出された。いずれも地方医学会のレベルに留まらない優れた研究報告であり、今後更なる活躍が期待される内容であった。

午後からは第29回徳島医学会賞・第8回若手奨励賞授与式に引き続き、同賞受賞者である越智ありさ氏(徳島大学医学部栄養学科生体栄養学分野)と島健二氏(徳島県医師会糖尿病対策班)による受賞講演が行われた。公開シンポジウムは「生活

の質(Quality of life)を高める医療最前線—難治な病気に光明が見えた!—のテーマに沿って7人の演者による講演が行われた。シンポジストと講演タイトルは1.石上剛史氏(徳島大学皮膚科「乾癬治療に新しい時代の幕開け～生物学的製剤～」)、2.岸潤氏(徳島大学呼吸器・膠原病内科「リウマチに対する生物学的製剤」)、3.西良浩一氏(帝京大学整形外科「腰痛治療の最前線」)、4.桑原章氏(徳島大学産婦人科「不妊治療、生殖医療の進歩」)、5.島袋充生氏(徳島大学心臓血管病態医学分野「異索性脂肪と2型糖尿病」)、6.武本重毅氏(国立病院機構熊本病院臨床研究部「成人T細胞性白血病の治療について」)、7.佐藤浩一氏(徳島赤十字病院血管内治療科「脳血管内治療の最前線」)であった。いずれも近年の分子病態解明を反映した最新治療を扱いつつも、一般市民参加者にも分かりやすい講演内容であった。

徳島医学会は大学と医師会が手を携えて地域医療の担い手を養成するユニークな取り組みであり、これまで徳島県民の健康と医療サービス充実に大きく貢献してきた。今後の更なる発展を祈念するとともに関係の諸先生方への感謝を持って稿を終えたい。



◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

岡奨学賞

木平孝高(薬理学分野 助教)

林幸彦朗(顕微解剖学分野 助教)

*医学部、疾患酵素学研究センター、疾患プロテオゲノム研究センターにおいて、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

■ 第246回徳島医学会学術集会(平成25年2月3日)において、第30回徳島医学会賞及び第9回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

徳島医学会賞

大 学

小松正人(疾患プロテオゲノム研究センターゲノム制御分野)
〈トリプルネガティブ乳癌におけるプロテアソーム関連因子PAG1による新規増殖機構の解明〉

医 師 会

八木恵子(医療法人有誠会手束病院)
〈コロナプスの卵的発想に基づいた体位変換用マットの試作〉

若手奨励賞

高木恵理(徳島大学病院卒後臨床研修センター)
〈妊娠を契機にATIII欠損症と診断され、血栓管理の後に出産に至った一例〉

小林直登(徳島大学病院卒後臨床研修センター)
〈高度進行肝細胞癌に対する放射線併用動注化学療法の有効性〉

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞

岡久稔也
(消化器内科 講師)

栄養学優秀教育賞

首藤恵泉
(実践栄養学分野 講師)

保健学優秀教育賞

藤本憲市
(医用画像機器工学分野 助教)

*医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

Best Teacher of the Year 2012 賞

医 学 科

住谷さつき
(精神医学分野 准教授)

早瀬康信
(小児医学分野 准教授)

北市隆
(心臓血管外科学分野 准教授)

栄養学科

馬渡一論
(予防環境栄養学分野 講師)

保健学科

井村裕吉
(医用放射線技術科学分野 講師)

*Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2012 賞 受賞者
後列左から：北市隆、井村裕吉、早瀬康信、住谷さつき、馬渡一論、多田学科長
前列左から：首藤恵泉、寺尾学科長、玉置医学部長、岡久稔也、藤本憲市

蔵 本 祭

第28回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 小山 智史

昨年11月に実施されました第28回徳島大学蔵本祭は、大盛況の末、無事終了しました。約半年の間、開催へ向け実行委員長として動いてきましたが、たくさんの仲間と協力して蔵本祭を運営し、素晴らしい経験ができたことは、かけがえのない思い出となりました。



今回は、学園祭期間の短縮や蔵本キャンパス内各施設の工事に伴い、例年通りには実施できない企画ばかりで、開催前から多くの問題を抱えていました。それでも「学生や来場者の方たちを楽しんでいただきたい」、「今その瞬間を楽しんでもらって、何か一つでも思い出を残してもらえれば」という思いから

“Dramatic Live!”というテーマを掲げました。蔵本祭は、実行委員会だけで運営するのではなく、蔵本キャンパスの約800名もの学生が委員として運営に関わっています。さらに、各部活・サークル・学科の枠を超えて盛り上げてくれる学生たち、様々な企画に参加してくれる来場者の方々、何か一つでも欠けると蔵本祭は成り立ちません。みんなの力で盛りあがった蔵本祭が、みんなの心にDramaticな思い出をひとつでも残すことができれば幸いです。

最後に、蔵本祭の開催にあたりご尽力いただいた学校関係者の皆様、先生方、蔵本地区の皆様、ならびに来場者の方々に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

蔵本祭と栄養学科

第28回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年次 永元 健太

栄養学科の学生は2,3年生の時に何らかの蔵本祭運営委員に所属します。その中でも栄養展委員は栄養学科の2,3年生の3分の1ほどが参加して、無料でテーマに沿った献立を提供・資料の展示を行う、栄養学科を象徴するイベントです。

栄養展委員長として私が留意したことは、「親しみやすい栄養展」にすることです。「親しみやすい」という目標を達成するために、2012年の栄養展では「菜膳」をテーマに掲げました。近年の栄養展では疾患にまつわるテーマが多く掲げられてきましたが、栄養展という栄養学科生が地域の方々との交流を図ることのできる数少ない場において、新たな栄養学科の側面を知っていただきたいと思い、企画・運営を行いました。

栄養展当日は、多数の地域住民の皆様にご来場していただき、アンケート調査を通して貴重なご意見を数多く頂戴しました。私は二日間の栄養展運営を通して、多くの方から栄養展が期待

されていることを実感するとともに、栄養展とは栄養学科生としての力量が評価される場でもあると強く感じました。

私は栄養展という媒体を介して、周囲から栄養学科に望まれていることについて考える機会を得ました。この経験を私自身だけでなく多くの栄養学科生と共有し、今後の栄養学科に生かしていきたいと考えています。最後に、栄養展にご来場いただいた皆様と、運営に協力いただいた栄養学科および実行委員の方々へ心より御礼申し上げます。



手浴をもう一度!

第28回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 中野 宏美

今年の模擬病院は、2日間を通して約460人の方に来場していただきました。先生方や友達、蔵本祭実行委員の先輩方に支えられ、昨年大好評だった手浴を今年も行うことができました。



また、今回は徳島保健所の企画である「親子はぐみ事業」として妊婦体験や赤ちゃん抱っこ体験も行うことができました。蔵本祭は毎年、学生だけでなく、地元一般の方に

も多数お越しいただいています。今回は2日間が土・日曜りと重なり、たくさんの親子連れや保護者に赤ちゃん抱っこ体験などを楽しんでいただけたと思っています。まだまだ実習経験もない、私たち看護学生ができることを精いっぱい発揮することができました。

今年も無事好評に終わり、たくさんの方と触れ合えたことは、学生にとっても良い経験となりました。あちらこちらで年齢・性別を問わず、明るい話し声が聞こえてきました。将来、医療従事者になるにあたり適切なコミュニケーションがとれることは重要であると、多くの学生が感じたことでしょう。ご来場頂いた方だけでなく、手伝ってくれた学生や友達からも「楽しかった。ありがとう。」という言葉を受けて、本当に嬉しくなりました。このような機会を与えてくださったことに心から感謝します。

数字で見る医学部

～平成25年3月卒業者の進路状況～

H25.2現在

医 学 科	
進 路 先	合計
徳島大学病院	9
徳島県立中央病院	7
徳島赤十字病院	6
高槻病院	3
徳島市民病院	2
香川小児病院	2
宝塚市立病院	2
兵庫県立淡路病院	2
京都第二赤十字病院	2
岐阜大学病院	2
神戸掖済会病院	2
豊田更生病院	1
六甲アイランド甲南病院	1
新行橋病院	1
健康保険鳴門病院	1
桂病院	1
上越総合病院	1
安城更生病院	1
八戸市立市民病院	1
藤枝市立総合病院	1
静岡県立総合病院	1
神戸大学医学部附属病院	1
八尾市立病院	1
神戸大学病院	1
岡山大学病院	1
土浦協同病院	1
千葉大学病院	1
香川県立中央病院	1
社会保険京都病院	1
岩手県立中部病院	1
金沢大学附属病院	1
済生会福岡総合病院	1
高知医療センター	1
聖隷浜松病院	1
近森病院	1
伊勢赤十字病院	1
奈良県立医科大学附属病院	1
岡山医療センター	1
手稲溪仁会病院	1
関西電力病院	1
明石医療センター	1
日本赤十字和歌山医療センター	1
医仁会 武田総合病院	1
西神戸医療センター	1
県立広島病院	1
兵庫県立西宮病院	1
回生病院	1
岡山赤十字病院	1
京都府立医科大学病院	1
兵庫県立加古川医療センター	1
東大阪市立総合病院	1
社会保険京都病院	1
東名厚木病院	1
県外の病院	1
小 計	82
未定	3
合 計	85

栄 養 学 科	
進 路 先	合計
株式会社サンデリカ	1
株式会社中部ディナーサービス	1
大鵬薬品工業	1
ふたば産業株式会社	1

ホクト株式会社	1
沖縄県立病院	1
愛媛大学	1
和歌山県立医科大学附属病院	1
徳島製粉株式会社	1
愛媛県栄養教諭	1
株式会社タカキペーカーリー	1
社会福祉法人はびねず福祉会	1
東京都	1
香川県	1
医療法人補天会光生病院	1
徳島県	1
住友別子病院	1
順天堂大学医学部附属静岡病院	1
中国中央病院	1
徳島大学HBS研究部	1
その他	1
小 計	21
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	21
大阪市立大学大学院	1
慶應義塾大学院医学系	1
小 計	23
未定	2
合 計	46

保 健 学 科：看 護 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	13
神戸大学医学部附属病院	10
大阪市立大学医学部附属病院	3
大阪大学医学部附属病院	2
岡山大学病院	2
京都大学医学部附属病院	2
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	2
神鋼病院	2
伊勢赤十字病院	1
愛媛県立中央病院	1
愛媛大学医学部附属病院	1
大阪医科大学附属病院	1
岡山医療センター	1
小野市役所保健センター	1
香川大学病院	1
九州大学病院	1
神戸市立医療センター 中央市民病院/西市民病院	1
埼玉社会保険病院	1
社会保険徳山中央病院	1
東京大学医学部附属病院	1
東京都小児総合医療センター	1
徳島赤十字病院	1
特定医療法人有隣会東大阪病院	1
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター	1
長崎大学病院	1
山口大学医学部附属病院	1
徳島県立総合看護学校	1
大阪学芸高等学校	1
徳島県小中高養護教諭	1
阿波市	1
東かがわ市社会福祉協議会	1
美馬市役所	1
勝浦町役場	1
上板町役場	1
徳島県庁	1
小 計	63
大 学 院 進 学	
進学(徳島大学大学院保健科学教育部)	11

進 学 (大阪大学大学院医学系研究科)	
小 計	合計
小 計	12
合 計	75

保 健 学 科：放 射 線 技 術 科 学 専 攻	
進 路 先	合計
大阪府立病院機構	2
香川大学病院	2
済生会今治病院	2
麻田総合病院	1
愛媛大学病院	1
大分医師会立アルメイダ病院	1
大西整形クリニック	1
沖の洲病院	1
川島病院	1
きたじま田岡病院	1
九州厚生年金病院	1
甲南会	1
小倉記念病院	1
社会保険 神戸中央病院	1
住友別子病院	1
高松赤十字病院	1
独立行政法人国立病院機構福山医療センター	1
長崎大学病院	1
東宝塚さとう病院	1
兵庫医科大病院	1
広島赤十字原爆病院	1
八尾徳洲会総合病院	1
高井病院	1
伊月病院	1
徳島県職員	2
鳥取県職員	1
兵庫県職員	1
和歌山県職員	1
小 計	32
大 学 院 進 学	
進学(徳島大学大学院保健科学教育部)	3
進学(九州大学大学院)	1
小 計	4
未定	1
合 計	37

保 健 学 科：検 査 技 術 科 学 専 攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	2
大阪厚生年金病院	1
回生病院	1
香川大学病院	1
葛城病院	1
関西電力病院	1
健保鳴門病院	1
さぬき市民病院	1
神鋼病院	1
徳島赤十字病院	1
半田病院	1
東宝塚さとう病院	1
東徳島医療センター	1
愛媛県職員	1
徳島県職員	1
小 計	16
大 学 院 進 学	
進学(徳島大学大学院保健科学教育部)	2
進学(徳島大学大学院医科学教育部)	1
小 計	3
その他	1
合 計	20

第59回徳島大学解剖体慰霊祭

事務部学務課

平成24年10月17日(水)15時から徳島大学長井記念ホールにおいて、第59回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者541人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6007柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきました。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。



新任教職員あいさつ



看護教育学分野 教授 岩佐 幸恵

平成24年12月1日付で、看護教育学分野を担当させていただくことになりました。私は、昭和62年に徳島大学教育学部特別教科(看護)教員養成過程を卒業した後、7年間の臨床経験を経て、看護教育の道に進みました。主な研究テーマは、看護職のキャリア形成支援と、前頭葉機能及び自律神経機能の発達に関する研究です。

人看護職員の1割弱が1年以内に離職しています。途に就いたばかりの看護師の道を、早々にあきらめるのは、とてももったいないことです。それまでの教育コストを考えると、個人だけでなく、社会にとっても大きな損失です。

看護学生が、新人看護師となり、2～3年の臨床経験を積んで一人前となり、いずれ中堅看護師となり、そしてエキスパートへと成長していく過程を支援していくことが、看護教育学の役割だと考えています。しかし、看護界の現状をみると、毎年、新

人看護師の離職の原因は、看護基礎教育の終了時点での臨床能力と看護現場で求められる能力のギャップだと考えられています。そのギャップを埋めるためには、看護基礎教育と臨床との連携が必須であり、学部と大学病院との連携を強化して、看護学生・看護師の教育に取り組んでいきたいと考えています。看護教育は臨床の協力なしには成立しません。何卒、ご支援とご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



学校保健学分野 教授 奥田 紀久子

平成25年4月から学校保健学分野の教授を務めさせていただくことになりました。

要だと考えています。そのためには、学部教育に加えて大学院教育においてより健康教育への造詣を深め、研究的視座を養うことが重要です。

私は、徳島大学教育学部を卒業後、看護教育と学校保健に関わってきました。

現在、私が取り組んでいる研究は、将来の社会を担う子どもの健康と健やかな発育の実現に寄与できる内容を中核としています。これらは、私自身の学校教育現場での教育経験に基づいたもので、「生きる力」の育成の基盤となる基礎的研究やより良い教育の構築に結びつく教育実践の検証や教育プログラム開発につながるものです。

学校保健学分野には二つの大きな役割があると考えています。一つは、学校に通う児童・生徒の健康と発育を支援する養護教諭の人材育成という役割、もう一つは、子どもたちの健康実態と課題を明らかにし、健康教育のあり方を探究するという研究的役割です。

これからも本学での教育・研究活動を一層推進するとともに、未来ある子どもたちの健やかな発育と健康の実現に貢献していきたいと決意を新たにしています。今までと変わらずご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

養護教諭に求められる資質と能力は、社会の変化とともにますます多様化、複雑化しています。これらの課題に柔軟に対応する人材を育成するためには、看護学を基盤として、教育的見地から子どもの健康に寄り添い、支援できる包括的な能力が必



放射線基礎科学分野 教授 阪間 稔

平成25年4月1日付けで、医用情報科学講座放射線基礎科学分野教授に就任いたしました阪間稔と申します。私は、神奈川県藤沢市出身(県立鎌倉高校卒)で、平成8年に東京農工大学工学部を卒業し、化学の基礎を修得した後、放射線

核種探索や迅速化学分離手法の研究(超重元素の科学)を行ってきました。平成12年には、人生初の四国・徳島に移り住み、これまでの研究を基盤とし、新たな研究領域への拡大(医歯薬・総科・工学部の諸先生との研究交流など)を図ってきました。それにより、現在では、高感度元素分析であるICPMSの生命科学研究への展開や特許技術である小線源治療法に絡む品質管理測定装置開発(放射線防護)、環境試料の除染技術開発(地域社会貢献)へと広範な研究活動を邁進しています。このように、放射化学は幅広く柔軟に対応できる領域であるので、これまで得た経験をもとに、放射線技術科学専攻における高度な教育・研究指導へと積極的に役立てていきたいと考えております。皆様方には引き続きご指導を賜りますようどうかよろしく願い申し上げます。

や原子核への興味が高校時代から薄れなかったもので、化学に絡む放射線の研究分野である放射化学(M.キュリー博士への憧れ)へ思いを強くし、大学院は、東京都立大学大学院理学研究科核・放射化学教室に進学しました。そこでは、身近な放射性核種のラドン研究(環境放射能)に触れ、フィールドワークや装置開発を経験しました。さらに、博士課程では日本原子力研究所の特別研究生として従事し、大型加速器施設を利用した新



微生物・遺伝子解析学分野 教授 片岡 佳子

平成25年4月1日より、医用検査学講座微生物・遺伝子解析学分野に就任いたしました片岡佳子と申します。昭和59年に岡山大学薬学部を卒業し、徳島大学医学部旧細菌学講座の大西克成教授の下で教務員として研究活動を開始し、“腸内

菌とヒトの健康”を基本テーマに研究活動を行ってきました。平成21年からは生体防御医学分野の安友康二教授の下で腸内菌と免疫の関連について研究させていただきました。腸内菌は難培養性菌を含む多種多様な菌種で構成されていますが、近年の分子遺伝学的解析手法の進展によって腸内菌叢の構成の相違

菌とヒトの健康”を基本テーマに研究活動を行ってきました。平成21年からは生体防御医学分野の安友康二教授の下で腸内菌と免疫の関連について研究させていただきました。腸内菌は難培養性菌を含む多種多様な菌種で構成されていますが、近年の分子遺伝学的解析手法の進展によって腸内菌叢の構成の相違

退職者ご挨拶



生理機能学分野 教授 吉崎 和男

平成6年9月に京都から徳島に赴任、ありがたかったのは歯学部、保健学科のあることです。歯科治療の心配がなくなり、20年来高値を示した中性脂肪が正常になりました！（食事制限の努力は効果なく、保健指導のおかげで？）

りました。徳島は自然が豊富で簡単に入手できるものと思っ
ていましたが、ウシガエルが外来生物指定を受け、高値で買うは
めになったのは誤算でした。しかし心停止時の心室細動が肉眼
で観察でき、心マッサージで正常な拍動にもどる感激を医学生
達に与えてくれました。

医学科生理学教育・研究に努めて来ました。生理研からの
NMR 移管では皆様大変お世話になりました。お陰様で小動物
用が現在稼動しています。学生実習ではカエル君にお世話にな

思えば赴任当時は明石大橋が未完成で、船上からの眉山の夜
景が綺麗で印象的でした。眉山散策や魚釣りなどやり残したこ
とが数多くあり、定年退職後も徳島へ来ることを楽しみにして
います。ありがとうございました。



学校保健学分野 教授 梶原 京子

皆様の暖かい人柄に助けられながら退
職を迎えられることに深謝いたします。
養護教諭として「子どもたちの健康を守
り育てる」ことを中核に据え勤務して
いた時は、もやもやとした気持ちをいつも
抱えていました。友人から大学院の入学を勧められ、学ぶ中で
それらの事象を分析する過程で曖昧なものが捉えられるという
経験をし、研究の面白味を教えられました。その後、養護教諭
を養成する役割を担うことになり10年が過ぎました。徳島大学

の保健学看護学専攻では、昨年度から養護教諭I種の資格を取
得した学生及び専修免許を取得した大学院生が輩出され、採用
試験にも合格し、養護教諭として活躍する場を与えて頂きまし
た。「色々大変ですがやりがいのある仕事です！」と力強い
言葉をきかせて貰えたことは養成者としての私自身の励みにな
りました。今後も養護教諭の実践や研究を視続けていきたいと
思っています。最後に、大学と皆様方のご発展を心から願っ
ています。



放射線基礎科学分野 教授 前澤 博

徳島大学医療技術短期大学部赴任以来
15年半を眉山の麓、蔵本で過ごしました。
着任前に徳島は風が強いと聞かされてい
た通り、平時に加え台風期には徳島航路
の欠航がしばしばでした。徳島大学では
組織運営に関わる貴重な機会を得、大学院保健科学教育部の設
置認可、またアイソトープ総合センターでの全学の放射性同位
元素管理と建屋改修など、医学部教職員の方々のご理解とご協
力で実現することができました。お陰様で大学院（博士前期）

設置時の丸合教員配置は全国トップクラスでした。私は専門の
放射線生物学分野では放射線治療、低線量影響と放射線作用機
構の研究を行って参りましたが、私の努力不足のため先生方と
の共同研究の機会が少なく全く残念でした。4月以降は新たな
環境で僅かな時間ですが教育・研究を継続するつもりです。大
学院生、学部生からは教育と研究へのパワーを頂きました。

昭和41年4月に入学して以来、半世
紀近い年月を徳島大学で過ごしてまい
りました。
これからは「徳島大学の」を冠せず、
何らの衣もまとわない「小野恒子」とし
て生きていくことに、肩の荷を下ろした開放感とともにかすか
な寂しさを感じています。夢中で専門の細菌学の基礎研究を続
けているうちに、いつの間にか教育者として大きな責任を背
負って存在していることに、我ながら戸惑いつつ歩んできた

これまで賜りました教員および事務職員皆様からのご支援に
深く感謝致しますと共に、皆様のご健康と唯一無二な医学部の
益々のご発展をお祈り申し上げます。



微生物・遺伝子解析学分野 教授 小野 恒子

昭和41年4月に入学して以来、半世
紀近い年月を徳島大学で過ごしてまい
りました。
これからは「徳島大学の」を冠せず、
何らの衣もまとわない「小野恒子」とし
て生きていくことに、肩の荷を下ろした開放感とともにかすか
な寂しさを感じています。夢中で専門の細菌学の基礎研究を続
けているうちに、いつの間にか教育者として大きな責任を背
負って存在していることに、我ながら戸惑いつつ歩んできた

日々でした。現在の日本の経済状況は大学に対して、即、社会
に還元される教育と研究を求めています。特に徳島大学は応用
の学問分野で構成されており、先端的研究を推進するとともに
専門職業人の育成を第一の目標としています。最後の12年間教
育を担当した医学部保健学科の学生は4年の間に明確な職業意
識を身につけて巣立っていきました。“大学は社会から干渉され
ずひたすら真理を探究する場である”との現実離れた幻想を
抱いていた私を長い年月、許容し支え協力して頂いた多くの
方々と徳島大学に感謝し、厚くお礼申し上げます。

新任准教授 紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属	異動年月日	異動内容	氏名	所属
H 25. 4. 1	採用	近藤 茂忠	生体栄養学	H 25. 4. 1	昇任	安原 由子	看護管理学
H 25. 4. 1	昇任	阿部 晃治	耳鼻咽喉科学	H 25. 4. 1	昇任	宮崎久美子	学校保健学

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞



第59回医学科卒業生(平成25年3月卒業)
岩 崎 綾

この度は名誉ある中田賞をいただき、大変光栄に存じます。熱心に指導していただいた先生方、支えてくれた友人、家族に感謝しております。この名誉ある賞をいただけたことに感謝するだけでなく、さらなるステップへの力にし、少しでも大きな社会貢献のできる医療人へと成長するため、日々精進してまいります。

看護学専攻賞



第8回看護学専攻卒業生(平成25年3月卒業)
東久保 あかね

この度は看護学専攻賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に感じております。温かくご指導くださった先生方をはじめ、共に支えあった友人、遠くから見守ってくれた家族に心から感謝しております。大学生活は、様々な経験を積み、多くの人と出会うことができた貴重な4年間でした。今後も徳島大学での学んだことを活かし、良き看護師となるよう日々努力して参りたいと思います。本当にありがとうございました。

す だ ち 賞



第8回検査技術科学専攻卒業生(平成25年3月卒業)
栞 原 祐 子

この度は、すだち賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。この4年間ご指導くださった先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人に心より感謝しております。大学生活では、多くの出会いの中で、充実した日々を送ることができました。今後もこの賞をさらなる励みとし、日々精進してまいりたいと思います。

児 玉 賞



第46回栄養学科卒業生(平成25年3月卒業)
粟飯原 麻衣

この度は、名誉ある児玉賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間、ご指導くださった先生方をはじめ、支えてくださった全ての方々心より感謝致します。今後は大学で学んだ栄養学という学問を社会に還元し、この賞に恥じぬよう日々努力して参りたいと思います。ありがとうございました。

放射線技術科学専攻賞



第8回放射線技術科学専攻卒業生(平成25年3月卒業)
秋 月 俊 祐

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞を受賞させていただき大変光栄に感じております。講義、実習等で4年間ご指導いただいた先生方、支えてくれた家族や友人達に心から感謝しております。大学生活は講義や実習を通して放射線の奥深さを知ることができ、非常に充実しておりました。今後も大学で学んだことを活かし、医療に貢献できるよう日々精進してまいりたいと思います。



第8回放射線技術科学専攻卒業生(平成25年3月卒業)
足 立 茉 里 奈

この度は放射線技術科学専攻賞という名誉ある賞を頂き、とても嬉しく思います。放射線技術科学専攻では、患者さんの負担を減らすために、できるだけ少ない被ばく量で照射し良質な画像を得るための知識や技術を学んだ4年間となりました。親身にご指導くださった先生方をはじめ、指導者の皆様に感謝致します。大学生活は多くの友人に恵まれ、充実した毎日でした。この受賞を励みとし、大学で学んだ知識や経験を生かし医療の現場に貢献して参りたいと思います。

医学部 優秀学生賞

栄養生命科学教育部博士後期課程2年次：池 田 翔 子
医 学 科 3 年 次：横 倉 航 一
栄 養 学 科 3 年 次：安 井 可 奈 子
剣 道 部：児 玉 隼 人 (外 44 名)
サ ッ カ ー 部：白 井 健 (外 37 名)
卓 球 部：田 村 聡 至 (外 15 名)

保健学科看護学専攻2年次：中 野 宏 美
保健学科看護学専攻3年次：山 崎 藍
保健学科看護学専攻4年次：小 松 龍 矢
保健学科放射線技術科学専攻2年次：松 浦 貴 明
保健学科放射線技術科学専攻3年次：岸 田 弥 奈
※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。(注：年次は選考時のものです。)



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。

(平成19年3月28日)

● 認証評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

● 認証期間 7年間

(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

編集後記



3.11の原発事故から早2年になる。世界各地で日本に対する励ましのイベントや原発反対の運動が起きているが、日本は比較的静かである。学生の積極的な活動もほとんど報道されない。静かであることが冷静な行動であればよいが、無関心ということであれば心配である。元気な新入生の活躍に期待する。

私は運動部の部長を長くやっているが、部活動に時間を割きすぎて成績が悪いのは困る。両立できない学生は部活動をやめるべきであると考えている。

(泉 啓介)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 森口博基(委員長)、泉 啓介、安友康二、三田村佳典、酒井 徹、大塚秀樹、米原壽男、菌田直央、藤本和輝、福田翔太郎

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel:088-633-9118 Fax:088-633-9028 URL http://www.tokushima-u.ac.jp/med/